

冬季講演会（中学校社会科研修）の報告

今回の講演会は「学習指導要領全面実施にむけて社会科授業に求められるもの」をテーマに、文部科学省初等中等教育局視学官で、国立教育政策研究所教育課程研究センターで教育課程調査官の藤野敦先生を講師にお招きして、講演をいただきました。新学習指導要領の全面実施を4月に控えるこのタイミングで、新たな年間指導計画や評価計画を立てる上で、注意すべきポイントや、授業実践とそれに対する評価のあり方について、とても具体的にご説明をいただきました。新型コロナウイルス感染症で非常事態宣言下でありましたので、参加者を30名といたしました。会員の皆様にも内容を抜粋してご紹介します。

1. 日時・場所 令和3年1月20日（水曜日） 午後3時30分より 花咲研修室 305号室
2. 講師 藤野 敦 氏（文部科学省初等中等教育局視学官・国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官）
3. テーマ 「学習指導要領全面実施にむけて社会科授業に求められるもの」
4. 内容のまとめ

(1)教育課程の内容構成について

- 地理的分野
 - 防災・安全・グローバル化に関する学習内容の充実
 - 地域調査の単元は生徒の「生活圏」に注目して学習を進め、その地域の将来についても考察する
 - 動態地誌のテーマ設定は旧課程に比べて柔軟に設定できるようになった
- 歴史的分野
 - 主権者教育の視点が盛り込まれた
 - 単元を貫く「問い」を設定し、追究していく学習方法を具体的に採用した
 - 各時代を大観して、時代の特徴をまとめる学習活動を採用した
- 公民的分野
 - 対立と合意、効率と公正に加えて、「協調」「持続可能性」が新たにキーワードとして追加された
 - 「金融」や「起業」に関することが経済の分野に新たに追加された
 - 国際社会では「よりよい社会を目指して」という項目が追加され、義務教育のまとめと位置付けられた

(2)主体的・対話的で深い学びという視点からの授業改善

- 「深い学び」とは
 - 例えば、「知識を相互に結びつけて、新たな概念的知識として高めていく」学び
 - 特に社会科では「社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象の因果関係や社会的意義を考えさせる活動」など、単なるキーワードの暗記にとどまらず、因果関係や相互の関連に気づかせる学習活動が必要

* 今回の改訂のポイント *

今までの改訂

「10年後にはこんな社会になるから、こんな力が必要だから学習しましょう」



今回の改訂

「10年後にどんな社会になるか分からないから、自分で対処できる力を身につけよう」

だから、「正解のない問い」を投げかけながら、考える力を身に付けさせる

(3) 「社会的な見方・考え方」と指導要領の記述と問いの工夫

- 知識及び技能の観点：指導要領の記述では「…を基に」→「…を理解すること」
- 思考力・判断力・表現力の観点：指導要領の記述では「…に着目し」→「考察し、表現すること」
 - 基盤とすることや、着目点（視点）が具体化されていて、それを用いて、理解したり、表現したりする学習活動を想定した学習指導要領の改訂になっている

「ヨーロッパ人に新大陸の存在を知らせたのは誰か？」→**コロンブス** は深い学びにはつながりにくい「確認」

(この確認をした上で…)



「なぜ、コロンブスは**西インド諸島**に到達したのか？」→地理的な背景について考える

「なぜ、その**時期**にコロンブスは西インド諸島に到達したのか？」→歴史的な背景について考える

このような「問い」はさまざまな知識や情報、資料を相互に関連づけることで結論が出せる「問い」

→このような「問い」の工夫によって、授業を構成して「深い学び」を実現させる

(社会的な見方・考え方を働かせるための「視点」例)

- 歴史的分野：時期・年代・展開・変化・継続・類似・特色・背景・原因・結果・影響などがある



(4) 「評価」と教科会の重要性について

- 従前から「教師の授業改善」と「生徒の学習改善」のための評価も重要な要素（形成的評価）
 - 評価に基づいて、教師も生徒も次の展開を検討する時間と場を作る必要がある
 - ゴールに到達しなそうな生徒への支援を教師は検討しなければならない
 - 評価だけを変えることは不可能で、指導計画や指導目標が事前にしっかり立てられていることが大事
- 「主体的に学習に取り組む態度」
 - 長いスパンで評価を行う（必要に応じて、単元を越えて評価基準を設定することも可能）
 - **見通し** → **途中での振り返り（調整）** → **振り返り（まとめ）**の流れを作る
 - 学習前の自分の予想と、学習後の自分がどう変わったのかを生徒が自身で確認する場と時間の設定
 - もっと効率的な学習をするためには、どのような方法があるかを考えさせる
 - 自分たちの学習を客観視して、評価できるようにする
- 「知識・技能」
 - 社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得できるように学習を設定する
 - ◇ 織田信長 → 「織田信長が目指した社会像は？近世の社会の基礎は？」を理解できているか？
- 「思考力・判断力・表現力」
 - 「見方・考え方」を働かせて考えられているか？ → 学習指導要領の「…に着目して」
- よりよい評価のための教科会の重要性
 - 例えば、「学校として、1年生社会科ではこんな力を身に付けさせよう」という共通認識を作る
 - 「3年間を通じて、〇〇中学校として、これができるようにしよう」という共通認識を作る
 - 教科会で話し合い、共通の目標を持って、指導にあたるのが生徒の成長につながる
 - 学校の教育目標の中のどの部分に社会科の果たす役割があるのか、なども考えるとよい
- 指導計画や評価計画を立てる上で有用な資料
 - 「●」…学習改善につなげる評価活動
 - ◇ アドバイス、追加の資料や説明、生徒の現状を確認するためのもの
 - 「○」…学習評価につなげる評価活動



(5) 参会者からの質疑と応答

- 生徒の課題は生徒それぞれで異なる。学校としてどこに目標を設定したら良いのか？
 - B 規準は「どの生徒もここには達成させたいという目標」というのが基本的な考え方
 - 生徒の力を B 規準まで高めることを考えながら、指導していくことが基本になる
- 「主体的に学習に取り組む態度」については、例えば「授業中寝ていたから減点」はありうるのか？
 - 生徒自身がどのように学習を進めるか、どのように学習内容を身につけるか、ということを経準にする